



# 2020年3月期 第2四半期（2019年4月～9月） 決算説明資料



**株式会社MCJ**

2019年11月5日

# 2020年3月期 第2四半期（4月～9月）における主なトピックス

## 業績

### □ 売上高、各利益共に第2四半期会計・累計期間双方で過去最高を更新

- 国内パソコン関連事業の好調により売上高、利益ともに順調に推移
- 国内パソコン市場が好調に推移する中、利益率の高いセグメントを中心に営業を展開
- 消費増税に向けた追加広告宣伝費等を吸収し、過去最高益を更新
- 以上の結果、2019年10月24日に**第2四半期累計連結業績予想を上方修正**

## 中計

### □ 中期経営計画(2020年3月期-2022年3月期)初年度として順調なスタート

- 売上拡大に加え、収益性の向上策を継続実施
- 重点強化分野における活動強化
  - 東京ゲームショウ2019への出展
  - eスポーツ分野におけるスポンサー提供の継続
- 中計にて設定した最重要KPIを念頭に事業運営を継続
 

- 営業利益率	9.1%	(目標値：6～7%程度)
- ROIC	通期にて開示予定	(目標値：12%以上)
- ROE	通期にて開示予定	(目標値：12%以上)
- 配当性向	30% (計画)	(目標値：30%以上)
- DOE	通期にて開示予定	(目標値：4.5%程度)

## トピックス

- 通常の全国TVCM等広告に加え、消費増税に向けた追加広告を実施
- 東京ゲームショウ2019にグループとして初の出展
- 欧州における訴訟の件につき、進捗あり

<b>1. 第2四半期連結業績報告</b>	<b>3 – 19</b>
2. 中期経営計画進捗及びその他トピックス	21 – 27
3. 通期見通し	29 – 31

# 連結業績サマリー (1/2)



<p>2020年 3月期 第2四半期</p> <p>実績</p>	<p>4月～9月 累計期間</p>	<p>□ 累計期間としての<b>売上高及び各利益の過去最高</b>を更新</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 売上高： 727億円 (前年同期比 14.0%増)</li> <li>➢ 営業利益： 66億円 (同 46.6%増) <ul style="list-style-type: none"> <li>- 国内パソコン関連事業の好調により売上高、営業利益ともに大幅増加</li> <li>- マウス、ユニットコムの2社が業績を牽引</li> </ul> </li> </ul>
	<p>7月～9月 会計期間</p>	<p>□ 会計期間としての<b>売上高及び各利益の過去最高</b>を更新</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 売上高： 380億円 (前年同期比 21.7%増)</li> <li>➢ 営業利益： 36億円 (同 89.6%増)</li> </ul> <p>- <b>四半期としての営業利益最高額を2四半期連続で更新</b></p>

## 連結業績サマリー (2/2)

売上高、各利益共に会計・累計期間の双方で過去最高を更新

(百万円)	会計期間 (7月~9月)			累計期間 (4月~9月)		
	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	増減率	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	増減率
売上高	31,293	<b>38,075</b>	<b>21.7%</b>	63,783	<b>72,729</b>	<b>14.0%</b>
営業利益	1,922	<b>3,645</b>	<b>89.6%</b>	4,538	<b>6,652</b>	<b>46.6%</b>
経常利益	1,963	<b>3,721</b>	<b>89.5%</b>	4,506	<b>6,759</b>	<b>50.0%</b>
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,359	<b>2,484</b>	<b>82.7%</b>	3,134	<b>4,598</b>	<b>46.7%</b>

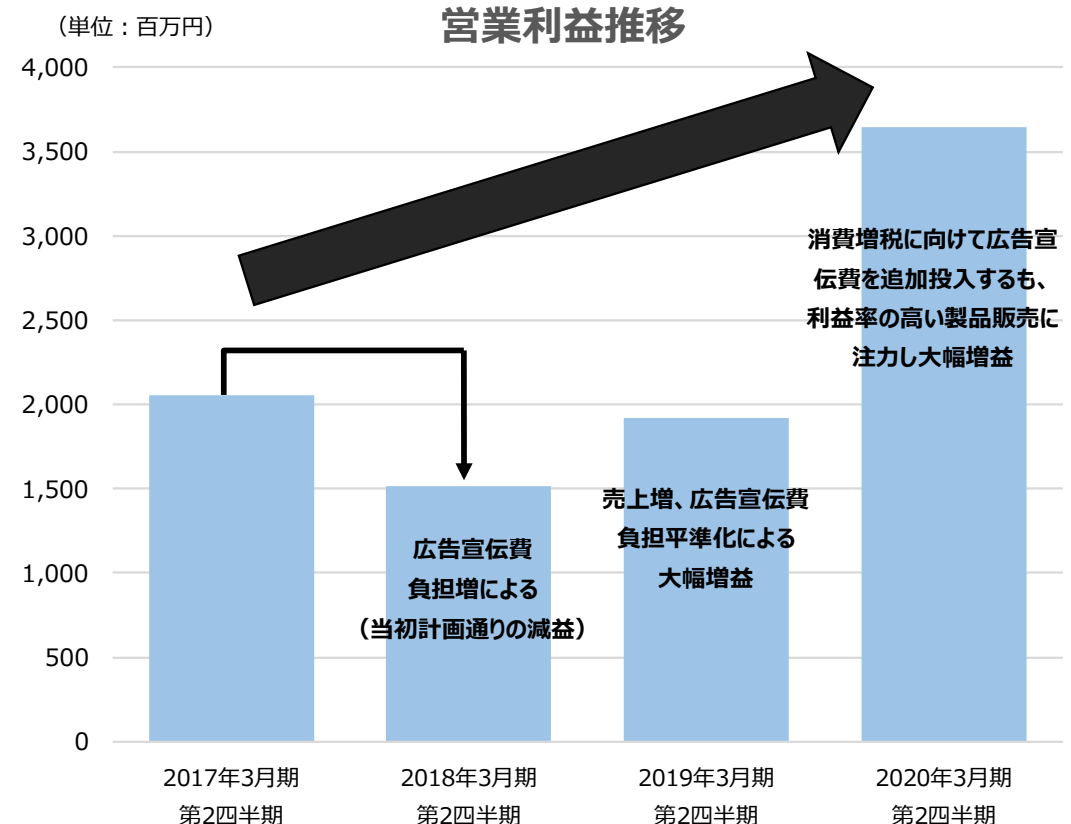
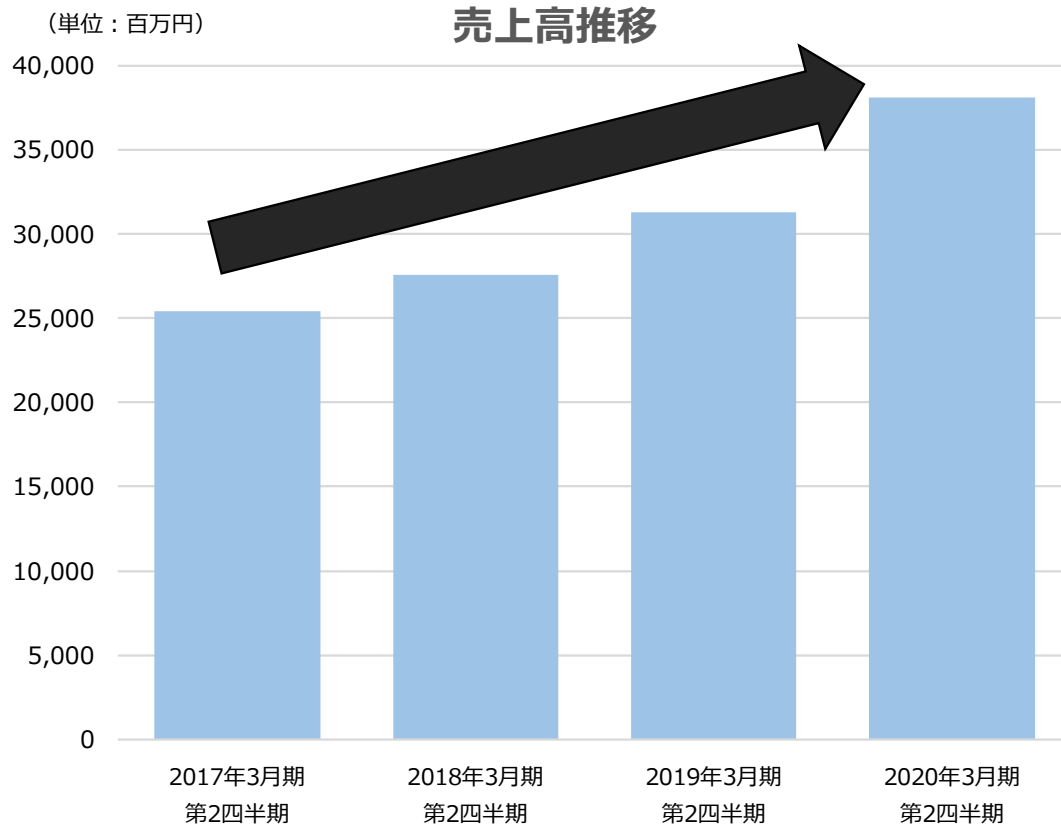
- 国内パソコン市場（出荷台数）が好調に推移する中、需要を捉えた製品販売に注力し売上高は大きく成長
- 利益率の高いセグメントに注力することにより、営業利益以下の各利益において大幅増益を達成

# 第2四半期（7月～9月）連結業績推移グラフ

パソコン関連事業の好調を受け、売上高は順調に拡大  
増収に加え、利益率の向上もあり大幅増益を達成

売上高は2017年3月期以降  
4期連続で前年同期比増収を達成

営業利益は前年同期比約9割増の大幅増益



## 第2四半期（4月～9月） 連結損益計算書

利益を伴う売上成長の継続により、前年同期比で大幅増収増益を達成  
 戦略的な投資費用として広告宣伝費及び人件費を増額

(百万円)	2019年3月期 第2四半期		2020年3月期 第2四半期		前年同期比	
	金額	売上対比	金額	売上対比	増減金額	増減率
売上高	63,783	100.0%	<b>72,729</b>	<b>100.0%</b>	8,946	14.0%
売上原価	49,015	76.8%	<b>54,616</b>	<b>75.1%</b>	5,601	11.4%
売上総利益	14,767	23.2%	<b>18,113</b>	<b>24.9%</b>	3,345	22.7%
販売費 及び一般管理費	10,228	16.0%	<b>11,460</b>	<b>15.8%</b>	1,231	12.0%
営業利益	4,538	7.1%	<b>6,652</b>	<b>9.1%</b>	2,113	46.6%
経常利益	4,506	7.1%	<b>6,759</b>	<b>9.3%</b>	2,253	50.0%
税金等調整前 当期純利益	4,506	7.1%	<b>6,717</b>	<b>9.2%</b>	2,211	49.1%
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,134	4.9%	<b>4,598</b>	<b>6.3%</b>	1,463	46.7%

# 第2四半期（4月～9月） 連結業績予想に対する達成率

第2四半期累計連結業績予想に対し、売上高・各利益ともに上回り着地  
 第2四半期累計連結業績予想を10月24日に上方修正

(百万円)	第2四半期連結業績計画に対する達成率		
	2020年3月期 第2四半期 実績	2020年3月期 第2四半期累計 期初予想	達成率
売上高	<b>72,729</b>	68,150	106.7%
営業利益	<b>6,652</b>	4,509	147.5%
経常利益	<b>6,759</b>	4,477	151.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	<b>4,598</b>	2,994	153.6%

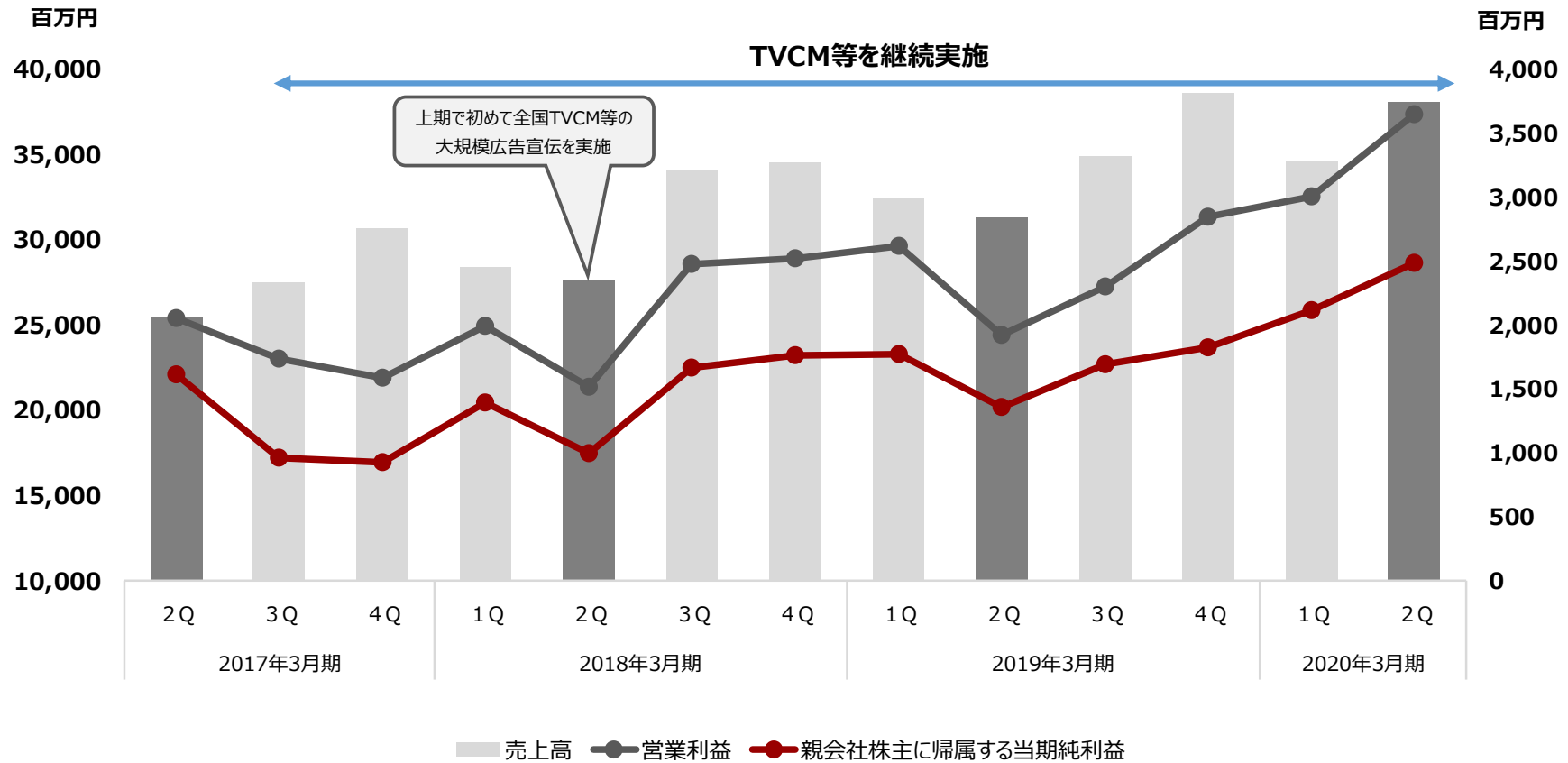
パソコン関連事業主要4社が予算比好調だった事が主因

売上増に加え粗利率が想定を上回った事による



# 第2四半期（4月～9月）連結業績推移

売上高は第2四半期として過去最高を更新、営業利益は四半期としての過去最高を更新



(百万円)	2017年3月期				2018年3月期				2019年3月期				2020年3月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
売上高	25,109	25,431	27,493	30,693	28,395	27,568	34,086	34,493	32,489	31,293	34,897	38,583	34,654	38,075
営業利益	2,084	2,056	1,733	1,589	1,993	1,518	2,472	2,520	2,616	1,922	2,299	2,849	3,007	3,645

# セグメント情報 第2四半期 4月～9月実績



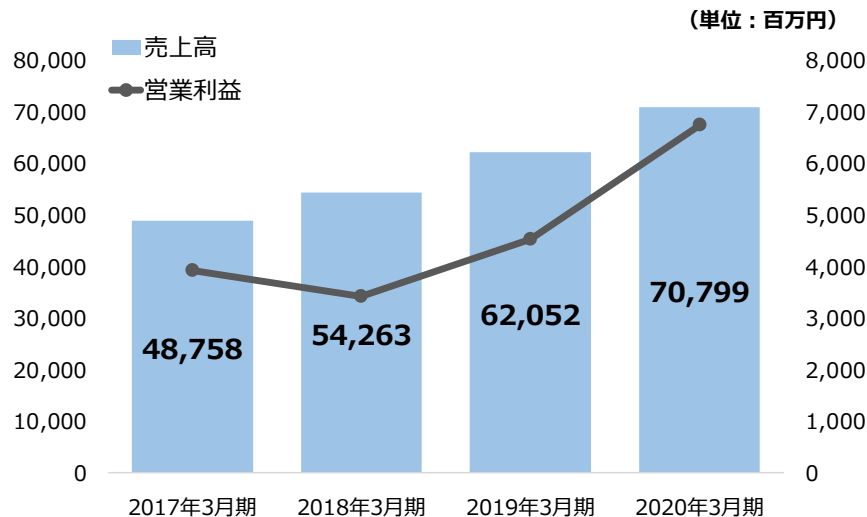
## パソコン関連事業

### ➤ 売上高 707億円（前年同期比14.1%増）

- マウス、ユニットコムが2割を超える増収を達成し、グループの増収を牽引
- iiyamaは為替換算の影響を受けつつも、日本円ベースでも増収を達成

### ➤ 営業利益 67億円（同48.7%増）

- 市場環境を受け、利益率の高いセグメントに注力した国内パソコン関連事業が増益を牽引
- iiyamaは日本円ベースでは前年同期比減益も、現地通貨ベースではほぼフラット
- 戦略投資である広告宣伝費増や人件費増を吸収し、大幅増益を達成

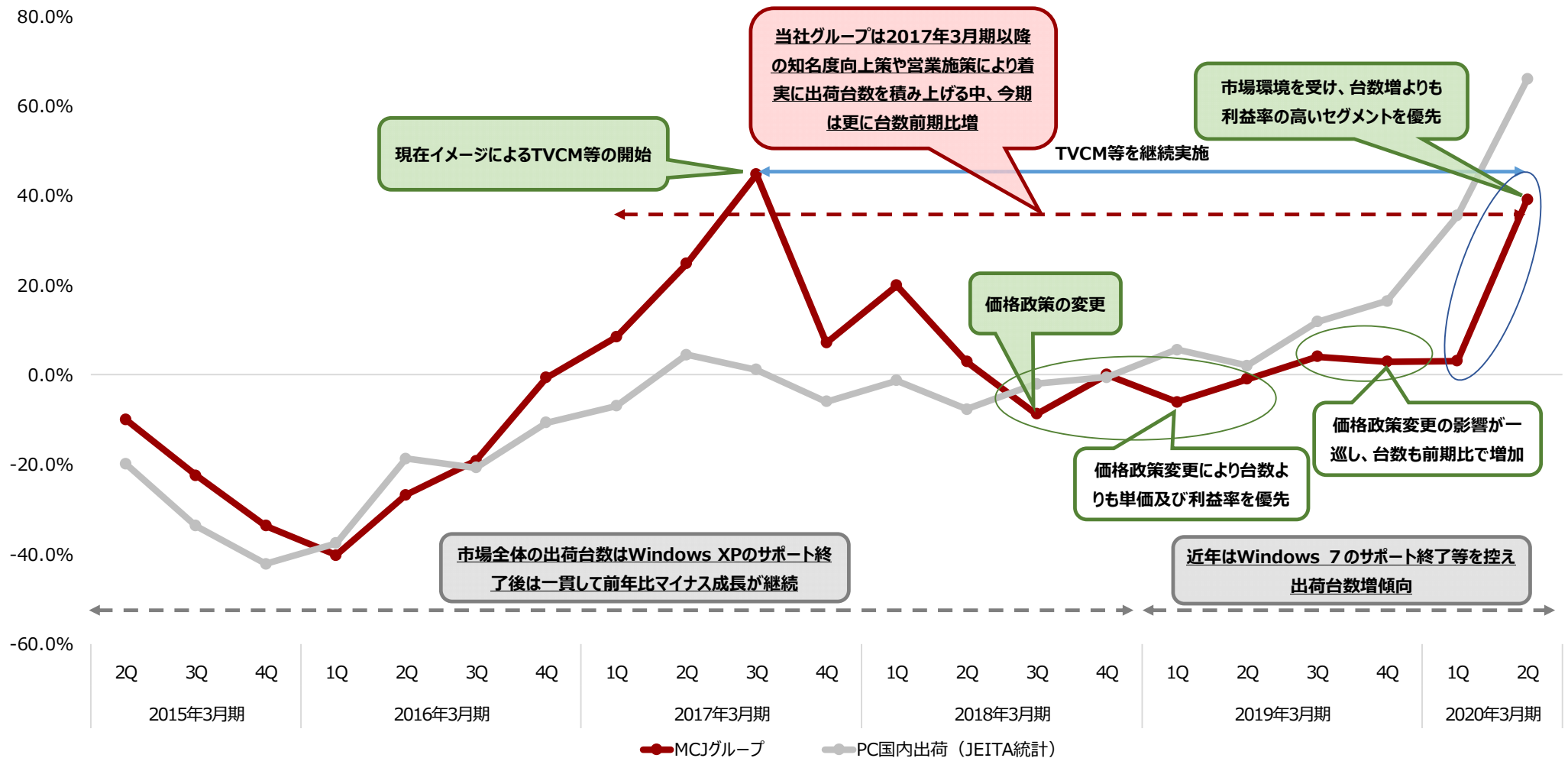


パソコン関連事業 (百万円)	2019年3月期 第2四半期		2020年3月期 第2四半期		前年同期比	
	金額	構成比率	金額	構成比率	増減額	増減比率
売上高	62,052	97.3%	70,799	97.3%	8,747	14.1%
営業利益	4,523	99.7%	6,726	101.1%	2,203	48.7%

※ 上記表には、連結消去及び全社費用等の金額が含まれていないため、「連結売上高」数値と各セグメント数値の合計値とが異なります。なお、構成比は、「連結売上高」数値を基に算出しております。

# 国内パソコン出荷台数増減率の推移

マーケット全体の需要が堅調に推移する中、過度に出荷台数増を追わず、引き続き利益率の高いセグメントに注力する方針を継続



※ 上記グラフは、四半期（会計期間）ごとの出荷実績を前年同期と比較したものです。

# 主要子会社トピックス 【マウスコンピューター】



PC及び周辺機器の開発・製造・販売

第2四半期 4月～9月実績

(百万円)	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	増減率
売上高	18,245	<b>22,262</b>	22.0%
営業利益	922	<b>2,395</b>	159.8%
経常利益	758	<b>2,460</b>	224.3%
当期純利益	487	<b>1,612</b>	230.6%

- 市場環境が好調に推移する中、利益率の高い製品がEC販売、法人向け販売を中心に好調に推移
- ゲーミングPC、クリエイターPC、法人向けPC、一般コンシューマー向けPC全てのブランドで大幅な売上成長を達成
- 定例の広告に加え、消費増税に向けた追加広告宣伝キャンペーンを9月に実施
- 以上の結果、販管費が前年同期比大きく上昇するも、第2四半期累計期間で前期通期業績に匹敵する営業利益を達成

# 主要子会社トピックス【マウスコンピューター】



PC及び周辺機器の開発・製造・販売

## TOPICS

## 主な取組み

### 広告宣伝

- 認知度向上のため、今期においても継続的にマス向け広告宣伝を積極展開
  - » 2019年6月に定例のTVCM等の実施に加え、消費増税に向けて9月にYouTube広告等の追加広告キャンペーンを実施
  - » 2019年7月より全国各地でタッチ&トライキャラバン（空港や駅等の公共交通機関における期間限定の製品展示及び紹介スポット）を実施等、広告手法を多様化



### 重点分野への注力

- eスポーツ分野におけるスポンサー提供の継続：プロゲーミングチームへのスポンサー提供
  - » FAV gaming レインボーシックス シーズ部門への機材提供
  - » YOSHIMOTO Gaming主催イベント等への機材提供
- プロチーム、イベント等への協賛、出展、ハイスペックPCニーズのあるスタートアップイベントへの協賛等を通じて潜在的な顧客との接点を強化



# 主要子会社トピックス【ユニットコム】



オリジナルPC、PCパーツ、周辺機器等の販売

第2四半期 4月～9月実績

(百万円)	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	増減率
売上高	14,620	<b>17,909</b>	22.5%
営業利益	172	<b>1,017</b>	489.7%
経常利益	196	<b>1,045</b>	431.0%
当期純利益	113	<b>661</b>	481.0%

- 注力チャネルであるEC及び法人のみならず店舗販売も好調に推移し、売上高大幅増
- 前期販売開始のディープラーニング専用PC等、独自開発PCも引き続き好調を維持
- PC本体売上のみならず、パーツ売上や利益率の高いサポート売上等も好調に推移
- 以上の結果、第2四半期累計期間で前期通期実績を超える営業利益を達成

# 主要子会社トピックス【ユニットコム】

## UNITCOM

### オリジナルPC、PCパーツ、周辺機器等の販売

#### TOPICS

#### 主な取組み

#### 製品情報

- AI開発・ディープラーニング専用PC
  - » 営業・開発現場のニーズを汲み取り、開発、製品化を実現
- デスクトップCPU搭載ノートPC
  - » 企画開発出来るパソコンメーカーとしての独自製品



#### 販売チャネル改革

- 前中計期間より行っている販売チャネル改革を継続
  - » EC及び法人チャネルに引き続き注力
  - » 一方で、残った店舗網の強化を目指して、既存店舗のリニューアルを推進



#### その他

- 各種awardの受賞
  - » “Intel® Partner Connect Asia 2019 Partner of the Year NUC Solution”受賞
  - » “Outstanding System Integrator Award”及び  
”Special Contribution Award”の2部門を同時受賞



# 主要子会社トピックス 【テックウインド】



## PC及びPC周辺機器パーツの卸売・販売

第2四半期 4月～9月実績

(百万円)	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	増減率
売上高	15,540	<b>17,272</b>	11.1%
営業利益	402	<b>449</b>	11.6%
経常利益	414	<b>441</b>	6.7%
当期純利益	284	<b>293</b>	3.4%

- 前期より実施している売上拡大施策を継続。法人向け販売の好調により売上高続伸
- 引き続き独自開拓製品やオリジナル製品等の高利益率製品が順調で営業利益も継続して成長





# 主要子会社トピックス【iiyama】



## モニタの開発及び販売

### 第2四半期 1月～6月実績\*

(百万円)	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	増減率
売上高	16,361	<b>16,584</b>	1.4%
営業利益	3,037	<b>2,798</b>	△7.9%
経常利益	3,099	<b>2,790</b>	△10.0%
当期純利益	2,330	<b>2,101</b>	△9.8%

- 欧州経済環境が悪化する中、引き続きデジタルサイネージ、タッチモニタを中心に販売台数・売上高共に底堅く推移
- 現地通貨ベースでは前年同期比10%弱の売上成長を達成するも、為替換算の影響があり日本円ベースでは売上は微増
- 第2四半期累計期間においてほぼ全ての営業展開国で前年同期比売上増を記録（現地通貨ベース）
- 営業利益は現地通貨ベースでは前年同期比ほぼ同額も、為替換算の影響によりマイナスで着地

※ 外国法人としてのiiyamaは12月決算の為、3か月期ずれて当社連結決算に組み込んでおり、当第2四半期累計期間においては1月～6月の業績を連結上組み込んでおります

# 主要子会社トピックス【iiyama】



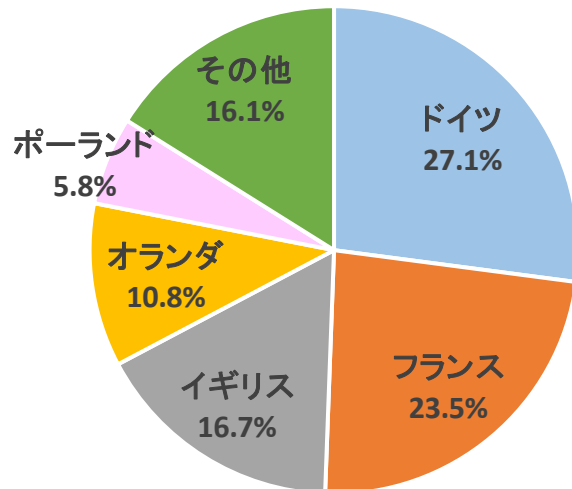
## モニタの開発及び販売

第2四半期 1月～6月実績\*

### 事業展開国別の売上構成比

# 事業環境を鑑みつつ、順次展開国及び地域を拡大予定

iiyama 国別売上構成比



### 主要製品（例）

# 顧客ニーズにあった多彩な製品ラインナップ



\* 外国法人としてのiiyamaは12月決算の為、3か月期ずれて当社連結決算に組み込んでおり、当第2四半期累計期間においては1月～6月の業績を連結上組み込んでおります

# 主要子会社トピックス 【R-Logic】



## アジア地域におけるPC及びIT機器の修理・サポート

第2四半期 1月～6月実績\*

(百万円)	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	増減率
売上高	1,512	<b>1,318</b>	△12.9%
営業利益	61	<b>24</b>	△60.5%
経常利益	86	<b>83</b>	△3.5%
当期純利益	66	<b>52</b>	△20.6%

- 引き続き事業拡大と経営管理双方で将来の成長のための投資を実行するフェーズ
- 一部事業の撤退等事業構造の改革と、費用をかけての経営管理基盤の強化を実施
- 売上は減収も、粗利は増益。人件費を中心に費用を積み増した結果営業利益以下は減益
- 収益基盤の強化を今期中で一巡させ、今期下期より増益基調を目指す

※ 外国法人としてのR-Logicは12月決算の為、3か月期ずれて当社連結決算に組み込んでおり、当第2四半期累計期間においては1月～6月の業績を連結上組み込んでおります

# セグメント情報 第2四半期 4月～9月実績

## □ 総合エンターテインメント事業：株式会社aprecio、株式会社MID

【ネットカフェ、24時間フィットネス、ホテル運営事業】

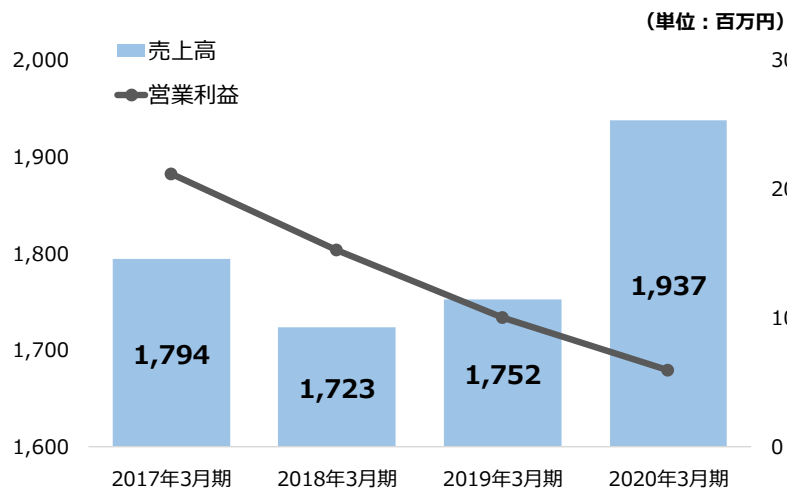


### ➤ 売上高 19億円（前年同期比10.6%増）

- ネットカフェ事業の既存店舗は前年同期比売上増も、店舗撤退の影響で微減
- 新規事業として出店を強化している24時間フィットネス事業が堅調に推移し増収を牽引
- ホテル運営事業は安定成長を継続

### ➤ 営業利益 0.5億円（同40.2%減）

- ネットカフェ事業は前年同期比プラスを確保
- 24時間フィットネス事業の新規出店コストを主因として営業利益は前期を下回り着地
- ホテル事業は安定した利益を計上



総合エンターテインメント事業 (百万円)	2019年3月期 第2四半期		2020年3月期 第2四半期		前年同期比	
	金額	構成比率	金額	構成比率	増減額	増減比率
売上高	1,752	2.7%	1,937	2.7%	185	10.6%
営業利益	100	2.2%	59	0.9%	△ 40	△ 40.2%

※ 上記表には、連結消去及び全社費用等の金額が含まれていないため、「連結売上高」数値と各セグメント数値の合計値とが異なります。なお、構成比は、「連結売上高」数値を基に算出しております。

1. 第2四半期連結業績報告	3 – 19
<b>2. 中期経営計画進捗及びその他トピックス</b>	<b>21 – 27</b>
3. 通期見通し	29 – 31

# 中期経営計画進捗サマリー



		目標値	実績
2019年 3月期 第2四半期 4月～9月	営業利益率	6～7%程度	<u>9.1%</u>
	ROIC	12%以上	<u>通期にて開示予定</u>
	ROE	12%以上	<u>通期にて開示予定</u>
	配当性向	30%以上	<u>30.0% (計画)</u>
	DOE	4.5%程度	<u>通期にて開示予定</u>
	業績推移	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 売上高、営業利益ともに順調に推移し、過去最高を更新、高成長率を維持</li> <li>□ 引き続き利益を伴う売上成長を志向し事業を運営</li> </ul>	
成長戦略	<ul style="list-style-type: none"> <li>□ 本業であるPC事業の収益力強化→将来への投資原資の着実な積み上げ</li> <li>□ 事業環境を鑑みて国内PC関連事業は積極的な事業投資を実施、欧州は過度な投資は避け安定運営</li> <li>□ 東京ゲームショウ2019への初出展、eスポーツ分野における製品提供やプロチームへのスポンサー提供等、注力分野における活動を強化</li> </ul>		

# 再掲) 今回の中期経営計画の位置づけ

## 前回中期経営計画

~ 2019年3月期

既存事業の収益性強化と将来成長の  
為の体制整備

- グループ会社の選択と集中
- 主要子会社の収益性強化プロジェクトを通じた成長投資及びステークホルダーへの還元余力の拡大
- M&A、ベンチャー投資を通じた地理的・製品軸拡大の為の基礎整備

基礎固めフェーズ

Step1

## 今回の中期経営計画

~ 2022年3月期

着実な事業拡大に向け、成長と投資  
のバランスを図る

- 国内PC事業、海外モニタ事業の着実な拡大による基礎収益の最大化
- バリューチェーン軸×製品軸での拡大投資《既存事業強化・発展》
- 将来ビジョン実現に向けて“右側部分”への着手・投資《事業多角化》
- 更なる成長に向けた社内体制整備

事業・収益多様化

Step2

## 今後の中期経営計画

~以降の期間

第1回及び第2回の中計を経て、長期ビジョン実現を図る時期

- 長期経営ビジョン実現に向けた先行投資の刈り取り施策
- ……

収益拡大期

Step3

高まった収益基盤の強化・投資強化のバランスを取り、将来ビジョン実現の第一歩を踏み出す

# 重点分野における活動強化：東京ゲームショウ2019

グループを挙げての注力分野の1つであるゲーミング分野における知名度及び地位の向上を狙い、グループとして初めて東京ゲームショウ2019に出展



一般コンシューマー（ゲーマー）のみならず、関係法人や学校法人等とのリレーション構築等にも積極活用  
**→ 広告宣伝手法の多様化とユーザー、関係者への直接リーチ手段として位置づけ**



# 欧州における訴訟に係る進捗に関して

一部被告との和解が成立。現時点では引き続き引当金計上等は無く、進捗をみつつ適宜開示予定

## 現時点における被告サイドとの交渉状況等に係る進捗

### 現時点までにおける経緯及び進捗\*1

#### 訴訟内容の概略

- CRTモニタ及びLCDモニタの国際的価格カルテルに関連し、当社子会社6社を原告として、被告17社（5グループ）\*2を相手に訴訟を開始

#### これまでの進捗

- CRTに係る一部訴訟を断念（訴訟関連損失を計上）
- 残るCRTモニタ及びLCDモニタに係る一連の裁判において、当社子会社に有利な判決が出るも、被告から控訴
- 現在、判決又は和解双方の選択肢の中で、当社子会社にとって有利な条件を模索し、関係者と交渉・調整中

#### 《CRT》

- ➔ 対象となる被告は3グループ6社
- ➔ **下記被告と和解が成立**  
Philips Electronics UK Limited  
Koninklijke Philips N.V.

- ➔ 残る4社については交渉等を継続中。進捗に応じて開示等予定

#### 《LCD》

- ➔ 対象となる被告は2グループ5社
- ➔ **下記被告と和解が成立**  
LG Display Co. Limited

- ➔ 残る4社については交渉等を継続中。進捗に応じて開示等予定

\*1 ) 詳細については本資料P25及びP26、当社HP上の関連開示資料を参照

\*2 ) 訴訟開始当時。その後一部訴訟の断念や会社解散があり、現在の被告社数とは異なる

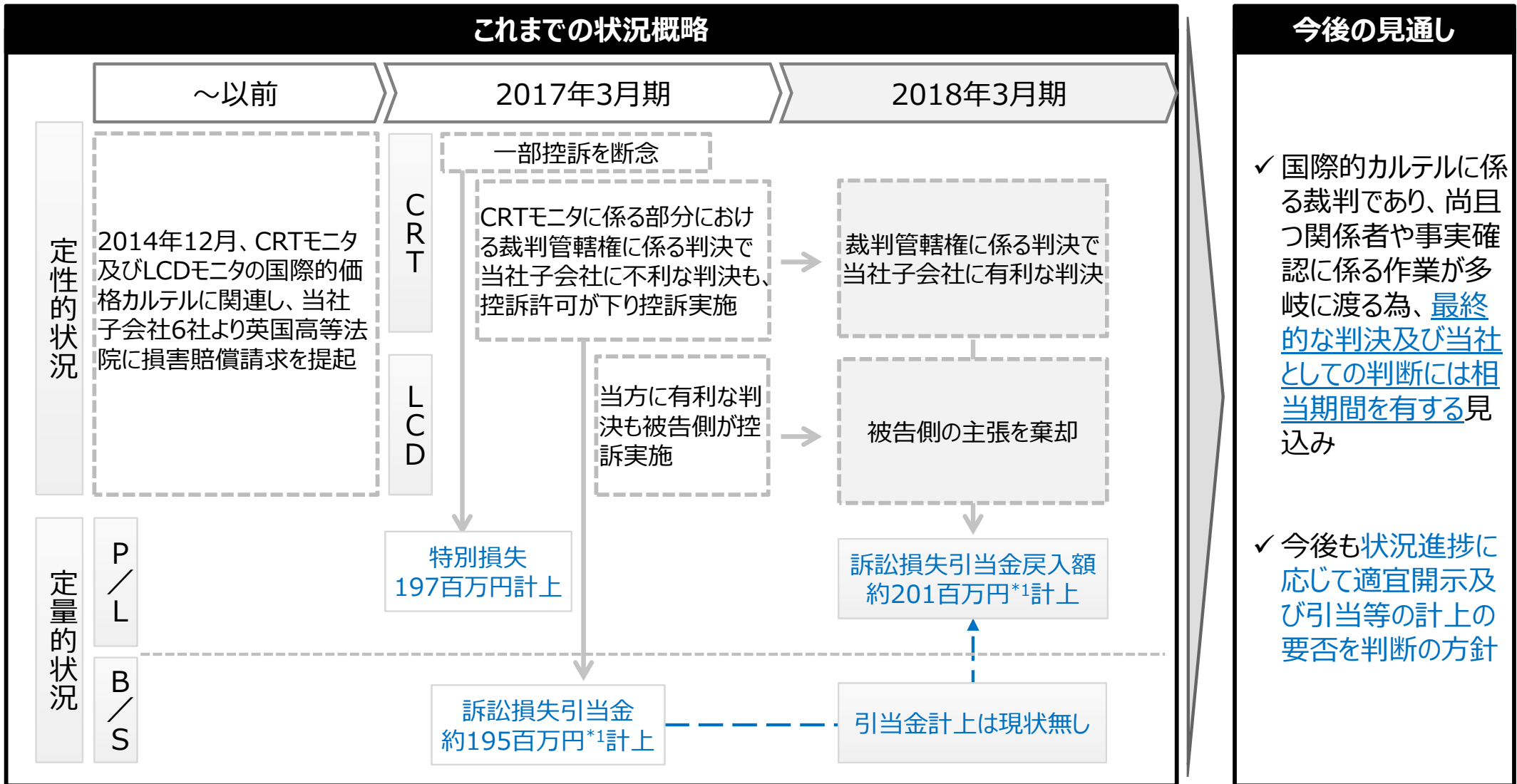
# 再掲) 欧州における訴訟に係る経緯 (1/2)

現時点では追加引当等は不要の状況も、解決には相当期間を有する見込み



# 再掲) 欧州における訴訟に係る経緯 (2/2)

現時点では追加引当等は不要の状況も、解決には相当期間を有する見込み



\*1 上記差額は為替換算による

## その他事項：台風の影響に関して

2019年10月に発生した台風19号の影響により、外部委託先の在庫の一部に実害が発生  
《2019年10月15日付にて適時開示》

### 《2020年3月期第2四半期決算短信より抜粋》

(重要な後発事象)

2019年10月に発生した台風19号の影響により、千曲川が氾濫し、当社子会社が一部製品の製造を委託している外部委託先の施設が浸水したため、在庫品及び部材品が被害を受けました。また、現在、デスクトップBTOパソコンの一部につきまして、納期及び生産に影響が出ております。

<業績に与える影響について>

本件が連結業績に与える影響は、現在調査中であります。

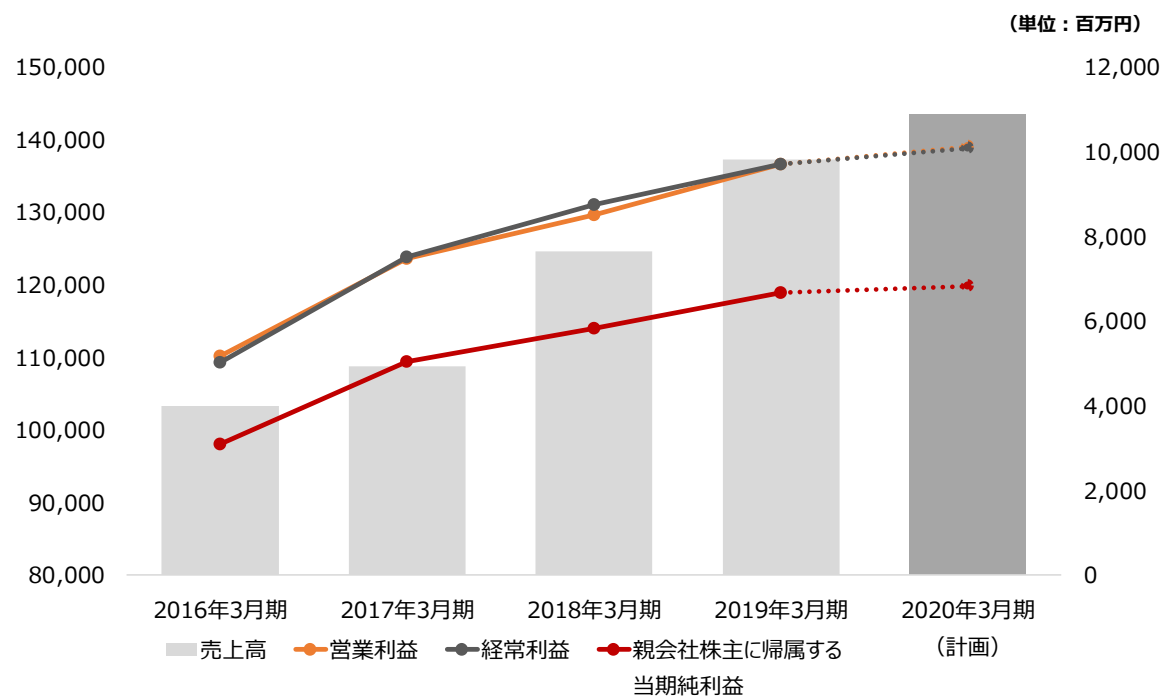
現時点においては実際に被った損害の範囲及び被害額、並びに今後の生産等に対する影響を精査中

**➔ 在庫への実害を精査の上、今後特別損失に計上予定**

- |                       |                |
|-----------------------|----------------|
| 1. 第2四半期連結業績報告        | 3 – 19         |
| 2. 中期経営計画進捗及びその他トピックス | 21 – 27        |
| <b>3. 通期見通し</b>       | <b>29 – 31</b> |

## 10月24日に第2四半期累計期間の業績予想を修正 通期連結業績予想については現在精査中

(百万円)	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期 (計画)
売上高	103,288	108,727	124,544	137,264	<b>143,480</b>
営業利益	5,167	7,463	8,504	9,688	<b>10,110</b>
経常利益	5,014	7,503	8,743	9,690	<b>10,071</b>
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,087	5,030	5,811	6,655	<b>6,821</b>



# 株主還元 配当金について

2020年3月期の配当性向は2019年3月期同等の30.0%を計画  
連続での増配を想定

	実績※				予想
	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期
年間1株当たり 配当金	6円50銭	13円00銭	18円00銭	20円50銭	<b>20円87銭</b>
配当性向	20.5%	25.1%	30.1%	30.2%	<b>30.0%</b>

□ 1株当たりの期末配当金額は20円87銭と予想

- 2020年3月期業績予想における親会社に帰属する当期純利益は68億円
- 配当性向は30.0%を計画
- 以上の結果、1株当たりの期末配当金額は**20円87銭**と連続増配を予想

※ 2018年3月期以前の上記1株当たり配当金は2018年7月実施の株式分割の影響を過去にも遡り適用した参考数値

# 株主還元 株主優待制度について

## 引き続き2020年3月期も株主優待制度を実施予定

### ① 1,000株以上

1万円相当の当社オリジナルカタログ  
(グループ製品及び飲食料品を予定) より1点選択 + ②

<商品一例>

音声翻訳機 / 21.5型液晶ディスプレイ  
ゲーミングキーボード・マウスセット / 国産牛すきやき肉  
かに・いくらセット / アイスセット / 日本酒セット 等  
※右記商品をご参考までに前期のものを掲載しておりますので  
今期の商品とは異なる旨ご了承ください

**MCJ 2019年3月期 株主ご優待商品カタログ** お申し込み期限 2019年7月31日(水) 消印有効

<b>01</b> マウスコンピューター 音声翻訳機 マウスコンピューター 音声翻訳機 T101 ●送料: 別途送料あり(送料1500円) ●数量: 1000台まで ●商品: 音声翻訳機 T101 ●送料: 別途送料あり(送料1500円) ●数量: 1000台まで ●商品: 音声翻訳機 T101 ●送料: 別途送料あり(送料1500円) ●数量: 1000台まで ●商品: 音声翻訳機 T101	<b>05</b> 米沢牛 すき焼肉 ●セット内容: 米沢牛 2540g ●送料: 別途送料あり(送料2500円) ●数量: 1000セットまで ●商品: 米沢牛 すき焼肉 ●送料: 別途送料あり(送料2500円) ●数量: 1000セットまで ●商品: 米沢牛 すき焼肉	<b>09</b> ボイルズワイガー いくら醤油漬けセット ●セット内容: ボイルズワイガー 120g×4、いくら醤油漬け 700g×2 ●送料: 別途送料あり(送料1500円) ●数量: 1000セットまで ●商品: ボイルズワイガー いくら醤油漬けセット ●送料: 別途送料あり(送料1500円) ●数量: 1000セットまで ●商品: ボイルズワイガー いくら醤油漬けセット
<b>02</b> Iiyama 21.5型 液晶ディスプレイ ●セット内容: Iiyama 21.5型液晶ディスプレイ ●送料: 別途送料あり(送料1500円) ●数量: 1000台まで ●商品: Iiyama 21.5型液晶ディスプレイ ●送料: 別途送料あり(送料1500円) ●数量: 1000台まで ●商品: Iiyama 21.5型液晶ディスプレイ	<b>06</b> キッチン飛騨 鶏卵牛と鶏脂の ハンバーグ ●セット内容: キッチン飛騨 鶏卵牛と鶏脂のハンバーグ 100g×10個、鶏卵牛と鶏脂の鶏卵ハンバーグ 100g×10個、鶏卵牛と鶏脂の鶏卵ハンバーグ 100g×10個 ●送料: 別途送料あり(送料1500円) ●数量: 1000セットまで ●商品: キッチン飛騨 鶏卵牛と鶏脂のハンバーグ ●送料: 別途送料あり(送料1500円) ●数量: 1000セットまで ●商品: キッチン飛騨 鶏卵牛と鶏脂のハンバーグ	<b>10</b> うなぎ蒲焼 (長焼) ●セット内容: うなぎ蒲焼(長焼) 110g×4、たれ・山椒付 ●送料: 別途送料あり(送料1500円) ●数量: 1000セットまで ●商品: うなぎ蒲焼(長焼) ●送料: 別途送料あり(送料1500円) ●数量: 1000セットまで ●商品: うなぎ蒲焼(長焼)
<b>03</b> G-Tune ゲーミングキーボード・ マウスセット ●G-Tune マカニールキーボード GT109001BK1 ●マウス: GT09001M02 ●送料: 別途送料あり(送料1500円) ●数量: 1000セットまで ●商品: G-Tune ゲーミングキーボード・マウスセット ●送料: 別途送料あり(送料1500円) ●数量: 1000セットまで ●商品: G-Tune ゲーミングキーボード・マウスセット	<b>07</b> 四川飯店 陳建一 料理セット ●セット内容: 餃子 110個、糖醋魚子 100g、四川飯店 450g×1、肉片菜 150g、水餃子 150g×10個、陳建一 料理セット 1500g×1 ●送料: 別途送料あり(送料1500円) ●数量: 1000セットまで ●商品: 四川飯店 陳建一 料理セット ●送料: 別途送料あり(送料1500円) ●数量: 1000セットまで ●商品: 四川飯店 陳建一 料理セット	<b>11</b> かねふく かねふく 煮番色半子明太子 ●セット内容: かねふく 煮番色半子明太子 450g×2 ●送料: 別途送料あり(送料1500円) ●数量: 1000セットまで ●商品: かねふく 煮番色半子明太子 ●送料: 別途送料あり(送料1500円) ●数量: 1000セットまで ●商品: かねふく 煮番色半子明太子
<b>04</b> 雪藏仕込み 新潟産 つきあかり ●セット内容: 雪藏仕込み 新潟産 つきあかり 20kg×4 ●送料: 別途送料あり(送料1500円) ●数量: 1000セットまで ●商品: 雪藏仕込み 新潟産 つきあかり ●送料: 別途送料あり(送料1500円) ●数量: 1000セットまで ●商品: 雪藏仕込み 新潟産 つきあかり	<b>08</b> リストランテ サバティエニ青山 アイスセット ●セット内容: マンゴー 120ml×8、ミルク 20ml×20ml、アイス 20ml×20ml ●送料: 別途送料あり(送料1500円) ●数量: 1000セットまで ●商品: リストランテ サバティエニ青山 アイスセット ●送料: 別途送料あり(送料1500円) ●数量: 1000セットまで ●商品: リストランテ サバティエニ青山 アイスセット	<b>12</b> 新潟泉の酒 飲み比べセット ●セット内容: 新潟泉の酒 飲み比べセット 200ml×4 ●送料: 別途送料あり(送料1500円) ●数量: 1000セットまで ●商品: 新潟泉の酒 飲み比べセット ●送料: 別途送料あり(送料1500円) ●数量: 1000セットまで ●商品: 新潟泉の酒 飲み比べセット

※05~12に関しては、ハガキ到着後3週間前後のお届けとなります。

### ② 100株以上1,000株未満

『パソコンワンコイン診断サービス』利用券  
(500円×2枚)

**MCJ 株主ご優待券** パソコン工房 GoodWill

**パソコンワンコイン診断サービス**  
1回無料利用券

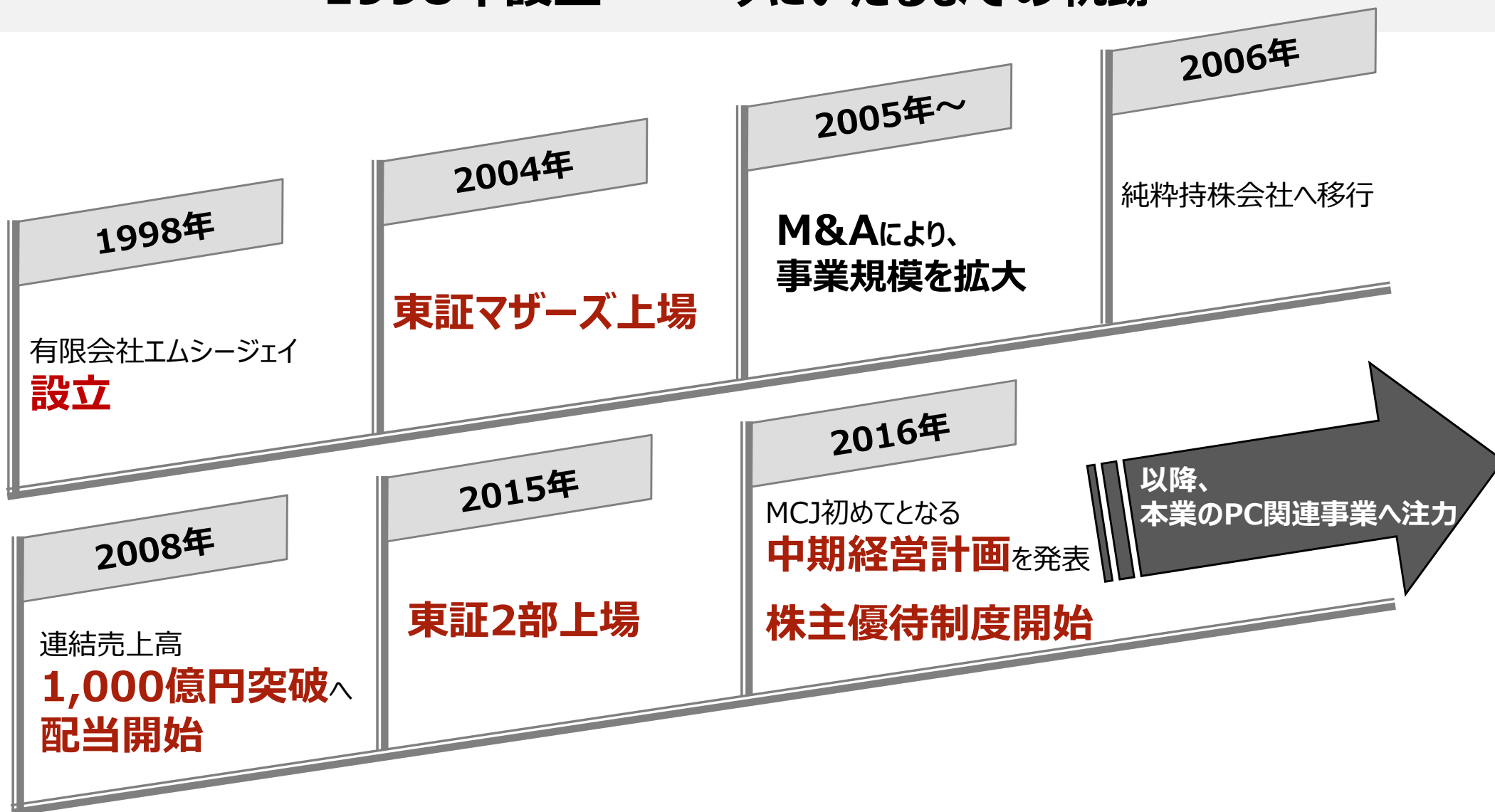
※この利用券は、MCJグループの株式会社エネットが提供する「パソコン工房」(パソコン工房)のコンピュータ修理サービス「ワンコイン」にて有効です。  
※この利用券は、MCJグループの株式会社エネットが提供する「パソコン工房」(パソコン工房)のコンピュータ修理サービス「ワンコイン」にて有効です。  
※この利用券は、MCJグループの株式会社エネットが提供する「パソコン工房」(パソコン工房)のコンピュータ修理サービス「ワンコイン」にて有効です。  
※この利用券は、MCJグループの株式会社エネットが提供する「パソコン工房」(パソコン工房)のコンピュータ修理サービス「ワンコイン」にて有効です。  
有効期限: 2019年6月30日 店舗使用に591



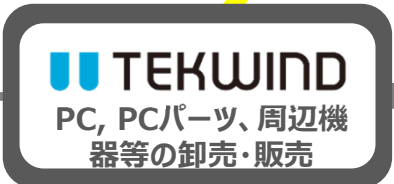
# Appendix

- 商号** : 株式会社MCJ (英語表記 MCJ Co.,Ltd.)
- 設立** : 1998年8月
- 代表者** : 代表取締役会長兼CEO 高島 勇二
- 資本金** : 3,868,102,900円
- 従業員数 (連結)** : 2,059名 (2019年9月末)
- 発行済株式数** : 101,774,700株 (同上)
- 証券コード** : 6670 (東京証券取引所第2部上場)

## 1998年設立 ～ 今にいたるまでの軌跡



# MCJグループ 主要子会社紹介



# 長期的な経営ビジョン ～ハードウェア×サービスの両輪による成長～

## 経営ビジョン及び事業方針

相乗効果

**取扱製品（ハード）**  
の拡充

**コンテンツ・サービス分野**  
への事業領域の拡大

### 設定の背景/考え方

# 情報に「アクセスする、発信する、共有する」手段としてのデバイスの多様化とユーザーニーズの多様化

# ハードウェア・サービスはそれぞれ独立関係ではなく、相互依存関係であり、ビジネスとしても一貫して捉えるのが自然

- 形は変われども情報への接点としてのハードウェアは無くならない
- ハードウェアは成長産業

- ハードウェアよりも事業ドメインは意外とスタティックな世界
- ハードウェア以上の成長ポテンシャル

### 方向性/目標

- PC、モニタへの注力は継続
  - » 日本・欧州における更なる成長を模索
- コンシューマーハードウェア / 法人向けハードウェア...
  - » 成長市場へのアクセスを図る

- 既存ハード事業と親和性のあるサービス等の開拓
  - » 日本市場を中心としてスタート
- コンシューマー/法人向けサービス...
  - » まずはスモールスタート

### 目標達成手段

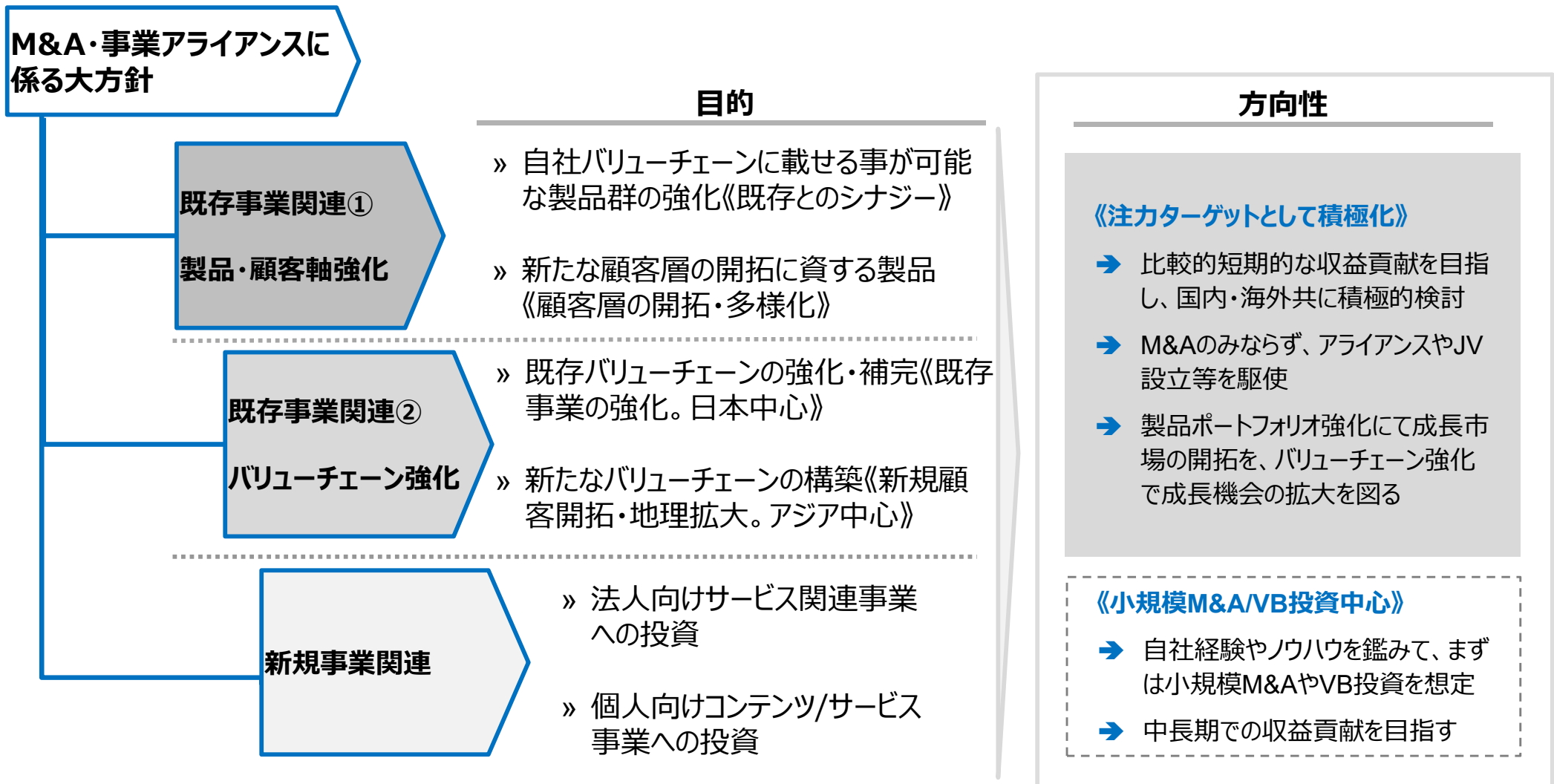
- 自社グループによる開発
- アライアンス戦略による拡大
  - » M&A、ベンチャー投資、事業提携...

- M&Aによる事業ドメインの拡大
- アライアンスによるサービス多様化
  - 当初はVB投資 / 少額M&Aにて着手

# 中計期間におけるM&A・アライアンス方針 (1/2)

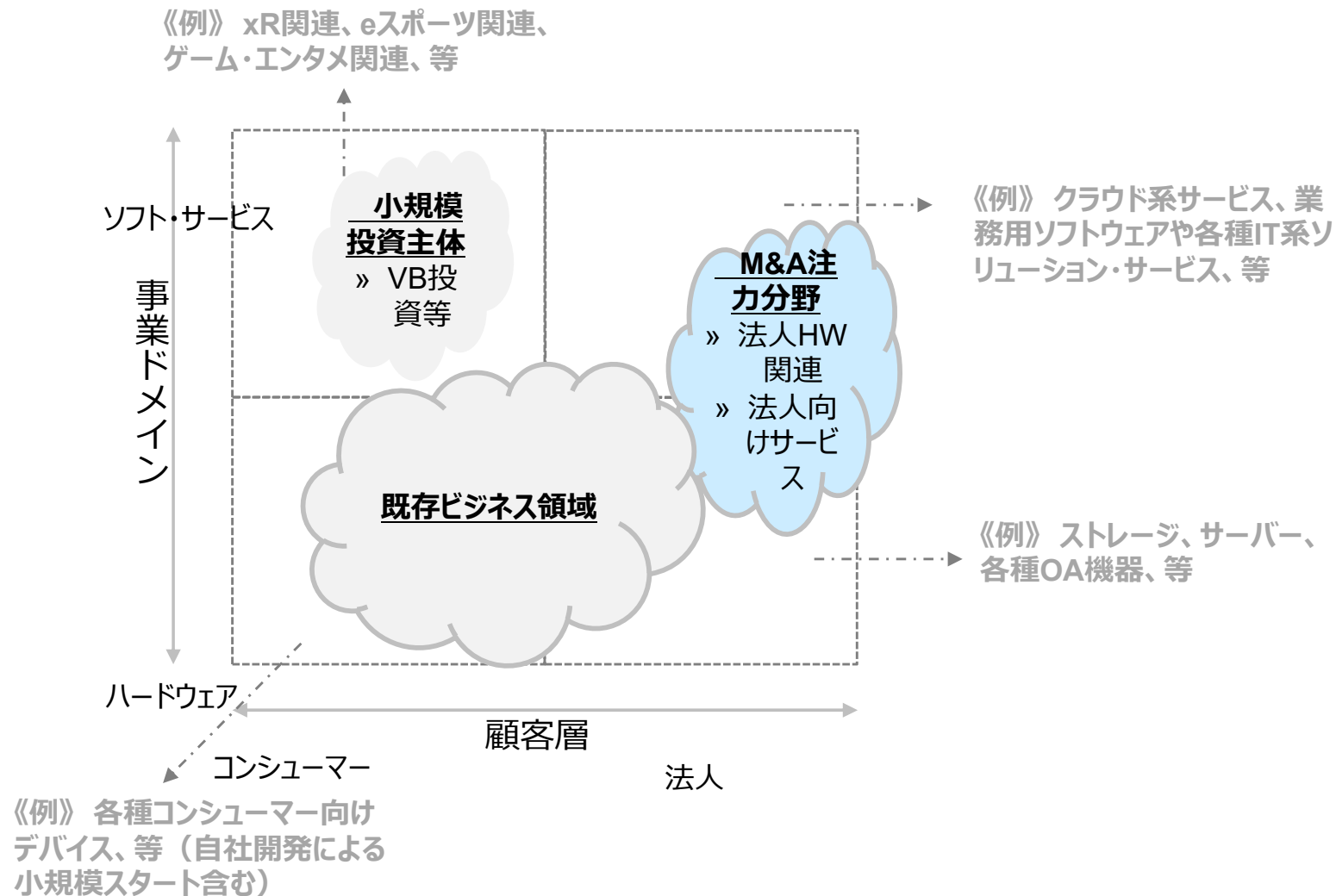
## □ M&A・アライアンス戦略に係る方針は以下の通り

- 既存事業強化を軸としつつ、将来の種まきを過度なリスクを取らない範囲で実行



# 中計期間におけるM&A・アライアンス方針 (2/2)

## 日本国内におけるM&A/投資テーマイメージ (現時点想定)



# 経営上重視するKPI



## 重要視するKPI

## 実績数値及び目標数値

重要視するKPI	実績数値及び目標数値		
	2016年3月期実績	2019年3月期実績	新中期経営計画期間における目標
<b>営業利益率</b> <営業利益/売上高>	5.0%	7.1%	➡ <b>6~7%程度</b> 連結ベースで概ね6%~7%程度を目安に事業運営及びポートフォリオ管理を実施
<b>ROIC</b> <NOPAT/事業性投下資本>	12.4%	17.6%	➡ <b>12%以上</b> エクイティースプレッドを確実に取れる事を前提とし、資本効率を意識した事業運営及びポートフォリオ管理を実施。その前提で下限を12%と設定
<b>ROE</b> <当期純利益/期中平均株主資本>	13.0%	18.3%	➡ <b>12%以上</b> エクイティースプレッドを確実に取れる事を前提とし、資本効率を意識した事業運営及びポートフォリオ管理を実施。その前提で下限を12%と設定
<b>配当性向</b> <配当総額/当期純利益>	20.5%	30.2%	➡ <b>30%以上</b> 下限を30%と設定し、M&Aを含む成長投資機会との兼ね合いにて都度判断
<b>DOE</b> <ROE×配当性向>	2.7%	5.5%	➡ <b>4.5%程度</b> 成長投資と株主還元のバランスを意識した経営を行うべく、今回新たに設定



# 免責事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定を前提として作成されており、実際の業績等は様々な要因によりこれらの見通しとは異なる可能性があります。

当社は、これらの将来の見通しに関する事項を常に改定する訳ではなく、またその責任も有しません。

尚、実際の業績等に影響を与える主な項目例は以下の通りとなりますが、将来見通しに影響を与える項目はこれらに限定されるものではありません。

- » 当社グループの事業領域を取り巻く各種経済情勢
- » 当社グループの製品・サービスに対する需要
- » 新製品等開発に係る当社グループの能力及び新製品・サービスの動向
- » M&Aや他社との事業等の提携
- » 資金調達環境、為替動向等の財務を取り巻く環境
- » 事故・自然災害等

## < IR及び本資料に関するお問い合わせ >

株式会社MCJ  
経営企画室 広報IR担当

Mail : [ir-otoiawase@mcj.jp](mailto:ir-otoiawase@mcj.jp)  
HP : [www.mcj.jp/](http://www.mcj.jp/)

M

C

J

M

C

J

**MCJ**  
HOLDING COMPANY